

奥会津博物館の集客力を高めるデザイン

グラフィック分野 北本ゼミ A2201723 星美沙

研究の背景

奥会津博物館は、失われつつある奥会津の伝統文化を保存・伝承することを目的としている。国重要有形民俗文化財を含む多数の民具を収蔵・展示するとともに、古民家の移築や藍染体験などの活動を行っている。現在、来館者数が全盛期の半数以下になってしまい回復しないことが問題となっている。東日本大震災の影響で南会津町への旅行者や小学校の学習体験が減少したことが問題の一つとしてあげられる。小学生向けの体験活動などを行っているものの、それに合わせたツール制作を行っていないため小学校側に具体的な学習内容が示せないことが原因である。また、一般向けにはポスターやパンフレット等でうまく発信できていないところも原因であると感じる。そこで、館内外で使用する小学生向けの学習ツール並びに、県内外の幅広い年齢の人に奥会津博物館を知ってもらうための各種グラフィックツールを提案したいと考える。

研究の目的

本研究では、奥会津博物館の来館者数増加を目的としたグラフィックツールを提案する。博物館を県内外に広く認知させるために、博物館の主な展示である木地師、藍染の要素を取り入れたロゴを制作する。制作ツールは、ロゴをもとに館内のイメージや南会津町の文化を伝承できるものにする。また、学習ツールについては、一冊で南会津町の歴史を学ぶことができ、小学生が博物館を通して、地域に興味を持つようなものを制作する。体験学習への参加者数増加を促すとともに、地元の小学生の学習の場となる博物館を目指す。全体的に博物館を連想させる色や形を使用し、広報物やツールをきっかけに地域の方々に親しみをもってもらえるようにする。

研究のプロセス

■前期

【奥会津博物館への調査】

- ・奥会津博物館が現在抱えている問題について
- ・展示内容、南会津町の歴史や民具についての理解
- ・必要なツールの検討

■夏季休業中

【分館(南郷館・伊南館・館岩館)の見学】

- ・展示内容、使用しているツールについて

【学習ツールについて】

- ・博物館が子供向けに行っている活動や使用しているツールについてのネット調査(全国 820 館)

■後期

【ロゴ制作】

- ・奥会津博物館館内職員及び、南会津町役場生涯学習係長への取材
(方向性決定のためと最終案制作のための2回)

【その他各ツールの制作】



▲ロゴサンプル案

成果物(完成作品)

■ロゴ〔1点〕

奥会津博物館の主な展示内容である、木地師・藍染をイメージした形を用いた。木目、削りあと、染液の波紋を表現している。南会津町が4つの町や村でできていること、博物館が民具を収集し、発信していることを意識して、集まること発信することの両方にとれる形になるよう工夫した。線を構成する3色は博物館に集まる来館者や県内外から訪れる多くの人を表している。藍色、黄色、赤の3色を使用し、それぞれの色が藍染、木地師、芸能を表す。民具を中心に扱う博物館であるため、地域と調和のとれる色を使用した。また、ロゴタイプにも木の削りあとをイメージした曲線を使用している。

■ポスター〔B2(515×728mm)×5点、B4(257×364mm)×1点〕

「山」「川」「道」のテーマに合わせたポスター3点と、奥会津博物館全体を表現するポスターを1点、一般向けに制作。県内外多くの人に奥会津博物館を認知してもらえるよう、博物館の収蔵品である民具を大きく用いた構成にした。また、学習ツールに合わせて小学生向けのポスターも1点制作。

■パンフレット〔仕上がりサイズ(100×210mm)×1点〕

ロゴの色を全体に使用し、イメージの統一を図るとともに、イラストを使用するなど構成を工夫することで博物館の展示内容やイメージを的確に表現した。また、奥会津博物館は藍染体験に力を入れるとともに、藍染を普及させていきたいという願いもあったため、写真や情報の配置を工夫した。

■学習ツール〔B5(182×257mm)×1点〕

奥会津博物館を通して、南会津町の歴史について学ぶことのできるツールを制作。イラストやクイズを多く用いることで、南会津町の歴史やその地域に小学生が興味を持つようにした。書き込むことのできるポイントを多くすることでパンフレットではなく、学習ツールとなるよう工夫した。

■チケット〔カラー(165×60mm)×3点、モノクロ(165×60mm)×3点〕

大人／高校生／小・中学生の3点を制作。色はロゴに合わせた3色を使用し、モノクロでも奥会津博物館らしさが表現できるデザインとした。

考察

集客力を高めるデザイン提案ということで、博物館を的確に表現すること、情報をわかりやすく伝えるツールを制作することを目標とした。ロゴについては、博物館の特徴を取り入れつつ、職員の方々や来館者に納得していただけるような形を表現することの難しさを感じることもできた。特にパンフレットや学習ツールにあたっては、制作する自分自身も歴史や道具に対して理解を深めることが必要であった。また、電話対応や調査に苦手意識を持っていたためなかなか踏み込めず、全体的に制作が大きく遅れてしまったことが反省点である。本研究を通して、自身の計画の甘さと電話対応やアンケート調査などから、人と関わり人に求められるデザインをすることの難しさを学んだ。それだけでなく、苦手としていた表現も求められ、そういった表現に挑戦することで自身の表現の幅を広げられたという良い点もあったと思う。